



# 経筒と経塚

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 経筒

経筒きょうづつとは、経典きょうてんを納めて地中に埋めるための容器です。盛んに制作されたのは平安時代後期で、その背景となっているのは末法思想まつぽうしそうです。日本では、平安時代後期の永承7年（1052）に、末法の世に突入すると考えられていました。つまりそれ以後は、仏教が全く衰えてしまう時代になると考えられていたのです。これは当時の人々にとって、まことに深刻なことでした。末法の世の到来は、この世の終わりに近い意味合いを持っていたのです。しかし、末法の世は永遠に続くわけではありません。実に遙かな未来のことですが、56億7千万年後、弥勒菩薩みろくぼさつが如来にょらいとなってあらわれて教えを説き、みんなを救ってくれるとされているのです。そこで人々は、長い末法の世を越えたその時まで、仏の教えを伝えるために、経筒ほけきょうに法華経をはじめとする経典を納め、祈りを込めて地中に埋めたのです。

## 2 銅製経筒

紙に墨で書いた、巻物の経典を納める経筒には、さまざまな材質のものがああります。その中で、最も広く一般的にみられるのが、銅製経筒です。そして銅製経筒にも、さまざまな形や技法のものがああります。主流は円筒形で、筒の全体を一気に鑄造してつくったり、鑄造製の輪を積み重ねてつくったり、銅板を丸く曲げてびょう鋳で留めて筒状にしたりしてつくっています。また、銅板を組み合わせて、六角形や四角形など、多角形の筒につくることもああります。北部九州に特徴的な銅製経筒としては、四王寺型しおうじがたきょう経筒や積上式つみあげしききょうづつ経筒などがよく知られています。四王寺型経筒は、蓋ふたに宝珠型ほうじゆがたのつまみをもち、筒の上下と真ん中あたりの高さのところに、竹の節のように凸帯をめぐらせていて、そして比較的肉厚で重みがあって、洗練された姿をしています。積上式経筒は、その名の通り鑄造製の輪を積み重ねてつくったもので、蓋の上に五重塔のような相輪そうりんをもっているのも目を引きます。



四王寺型経筒（平安時代・12世紀）



陶製経筒（宋時代・12世紀）

### 3 陶磁製経筒

経筒には、陶磁器でできたものがあります。とくに北部九州では、陶磁製経筒は、盛んに用いられていました。そしてそれらの多くが、宋時代の中国からの輸入陶磁器なのです。中には、本来は別の用途をもっていたものが、経筒に転用されている例もあります。しかし多くは、元々経筒としてつくられているものです。ここで興味深いのは、多くを占めるこれらは、中国製であるのに、中国からは類例が見つかからないことです。このことについては、これらの陶磁製経筒は、日本向けに特別に生産していたものなのだと考えられています。平安時代後期から鎌倉時代にかけて、北部九州には多くの中国人商人たちが拠点を構えて、活発に大海を往来しつつ交易を行っていました。輸入陶磁製経筒は、彼らの存在を介して、北部九州と大陸とが密接に結びついていたことを、つよく実感させてくれます。

### 4 経塚

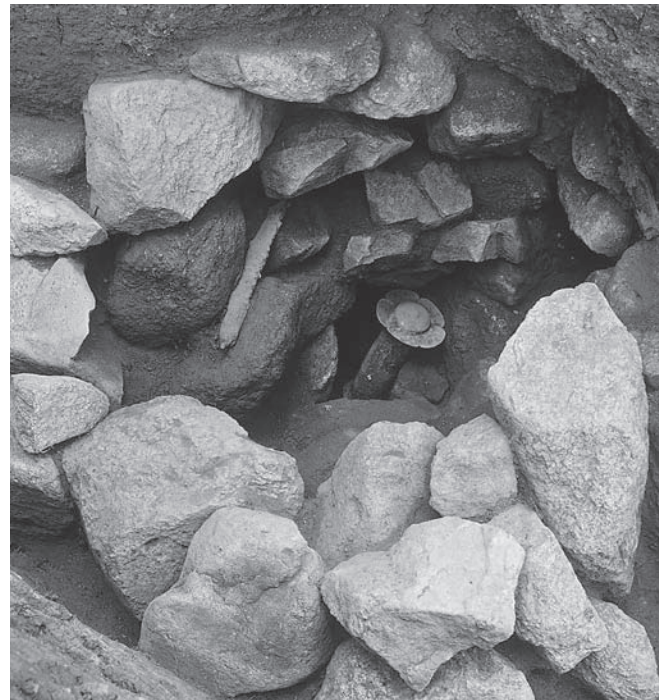
経筒には他にも、さまざまな材質や形状のものがあります。しかしいずれにせよみんな、遙かな未来へ経典を伝えるために、なるべく堅固なものを使おうとしているようです。そして実は、紙に墨で書いた経典を経筒に納めるというやり方だけではなくて、銅板きょうばんに経文を刻んだり、粘土板に経文を刻んで焼いて瓦経がきょうにしたり、石に経文を刻んだり墨で書いたりという例も、まま知られているのですが、これらについても同様のことが言えます。そして、これらを埋納した所である経塚きょうづかは、多くの場合、ただ穴を掘って埋めるというのではなくて、外容器に納めた上で、地下に小部屋をつくって埋めていたり、また御守りになるような品々を一緒に納めていたりします。経典まいのうしせつ、埋納施設ふくのうひん、副納品含め、経塚には埋納者たちの想いが映し出されているのです。経筒の場合多くは、残念ながら中の経典は朽ちてしまっていますが、想いは受け継ぎながら、遺されたものを未来へ伝えてゆきたいと思います。

(学芸調査室 井形進)



白山神社経塚出土遺物

積上式経筒（天仁二年・1109年）、外容器の壺、副納品の合子と銅鏡と短刀。壺と合子と銅鏡は宋時代のもの。



水城経塚出土風景

石室の中に、銅板を筒状に丸めてつくった経筒と、短刀が見えている。



編集

発行:平成23年2月1日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>